

穴八幡古墳 (比企郡小川町)

前方に穴八幡古墳がある





穴八幡古墳の墳丘/方墳





あな はち まん こ ぶん
県指定史跡 穴八幡古墳

小川町大字大塚と増尾の間に位置する八幡台地のほぼ頂部に立地する穴八幡古墳は、埼玉県内でも最大級の規模を持つ方墳です。首長を治めた横穴式石室は南に開口し、内部には下里産出と考えられる大きな緑泥石片岩を利用しています。また、この位置が小川の盆地を一望にみわたせることなどから、この古墳の被葬者はこの盆地を治めた有力人物であったのかも知れませんが、

新編武蔵風土記稿によれば、この古墳は寛文（一六六一～一六七三年）の頃、切りくずして陸田にしようとしたところ、石室が現れたので中止したことが記されています。なお、文政十二（一八一九）年、島田氏が八幡神社を勧請したので穴八幡と呼ばれるようになった。遠く江戸吉原のおいらん衆が奉納した提灯や手ぬぐいが残っていました。

平成十年三月

埼玉県・小川町教育委員会

← 史跡公園には、この先石段をあがってください。





前方に石室入口が見える







埼玉県指定史跡

穴八幡古墳

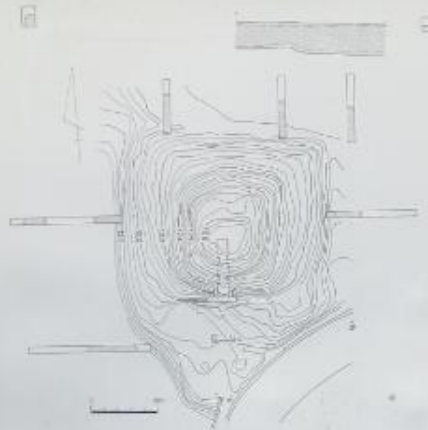
小川町大字増尾字岩穴六三一外
昭和三四年三月二〇日指定
平成三年三月一五日追加指定

当古墳は、巨大な横穴石室を備える古墳として、昭和三四年に埼玉県指定史跡に指定されました。古墳の形は、当時円墳と考えられていましたが、昭和六三年の発掘調査や測量調査により、周囲に二重の周堀を備えた方墳であることが確認されました。

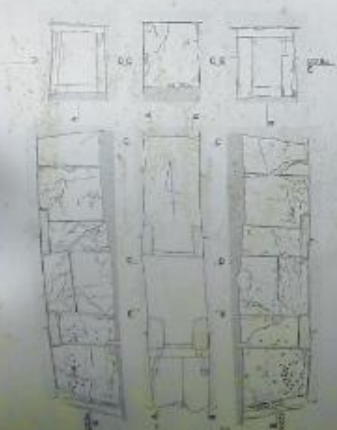
古墳は、墳丘の高さ約五・六m、一辺の長さ三・二mを測り、周囲の堀は内堀が幅五・七m、外堀が三・七〜四・七m、外堀の一辺の長さ六一・四mを測る、県内最大級の方墳です。

石室は、緑泥片岩などの大きな一枚石を組合せ、内部は奥室と前室から構成され、全長八・二mを測ります。

当古墳の造られた時期は、埴輪が出土しないことや前庭部から出土した須恵器から古墳時代終末期、七世紀後半と考えられ、小川盆地の古代文化を考えるうえで非常に貴重な存在です。



穴八幡古墳全体図



穴八幡古墳石室平面図

平成五年三月二五日

埼玉県教育委員会
小川町教育委員会



かなり大きな石である





小川町下里産の緑泥石片岩という/手前から羨道、前室そして奥が玄室



奥の玄室



八幡さまが鎮座している







穴八幡古墳

この穴八幡古墳は、二重の周溝をもつ方墳です。史跡整備のための発掘調査で、特に西側部分において、その全容が確認されました。

溝の北東・北西及び南東のコーナーが検出されました。その結果、この古墳の規模は、北側辺は25.6m、西側辺は31.0mを測ります。溝には北側で4.0m、西側で6.0mの底幅がありました。外周溝は西側途中で消失していましたが、これが人為的なものか、自然消滅かは確認できませんでした。南東コーナーが確認できたことで、石室の前面西よりに溝の掘りくぼみのない、通路のあったことが確定しました。



発掘調査（西側周溝）

穴八幡古墳全体図



穴八幡古墳の謎

穴八幡古墳の⑤つのはてな？

はてな？ 1

この古墳は二重の周溝をもつ古墳ですが、
どうしてこのような形が選ばれたのでしょうか。
当時の前方後円墳とはどのように異なるのでしょうか。

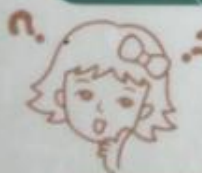


はてな？ 2

大きな緑泥石片岩を組み合わせた横穴式石室は
県内でも特殊な例です。
下里にあったと思われる採掘場からどのように運んできて、
どのように造られたのでしょうか。

はてな？ 3

石室の中には、現在の小川周辺では採れない
白い玉石が敷き詰められていました。
なぜ、わざわざそのような石を敷きつめたのでしょうか。



はてな？ 4

古墳には東海地方で作られた長頸壺が供えられていました。
どうしてその壺がここに供えられたのでしょうか。
そしてどのように流通してきたのでしょうか。

はてな？ 5

最後にこの古墳は誰の墓なのでしょう。

その他にも、北に山・南に川・東西に尾根といった古墳の立地は中国の風水思想と一致する謎であるとか、江戸時代の「新編武蔵風土記」と「秩父日記」とでは石室の様子が違っています。いつごろ現在のよう開いたのでしょうか。

現在の考古学や歴史学である程度わかるものもありますが、まったくわからないものもあります。どうぞ皆さんも考えてみてください。

平成10年3月

小川町教育委員会



前方後円墳



石室



玉石



長頸壺



被葬者？



「新編武蔵風土記」 [文政8(1825)年]
国立公文書館内閣文庫蔵



「秩父日記」 [寛永6(1653)年]
埼玉県立図書館蔵

周囲を廻ってみる



2重の集壕/正面は内堀跡



内堀跡と古墳



左手は外堀跡



外堀跡





内堀が後ろに廻り込んでいる



振り返って見る



古墳後ろの内堀







振り返って見る



すぐ近くにある八幡神社







吉岡酒店

村田健次

(有)むらさき

松本写真館

株二葉本店

(有)藤屋精肉店

凸坊輪店

庚申













八幡宮とある



沢山の境内社/高麗神社、新羅神社が祀られているのも興味深い

御社名 八幡神社(旧郷社八幡宮)

御祭神 誉田別命・保食命・大山咋命
天照皇大神・豊受大神

境内社

産泰神社(伊弉諾命・伊弉册命)
天手長男神社(天手長男命)
琴平神社(大物主命)
秋葉神社(軻遇突智命・河菜姬命)
寅稻荷神社(倉稻魂命)
天神社(菅原道真) 合殿
疱瘡神社(少名彦名命) 合殿
大山祇神社(大山祇命) 合殿
高良神社(武内宿祢命)
高麗神社(高麗命) 合殿
稻荷神社(豊宇気姬命)
新羅神社(奥津甲斐并羅命)
愛宕神社(火産靈命)

御祭事

元旦祭 一月一日
春祭 三月十日
例大祭 十月十九日
七五三詣 十一月十五日
秋祭 十一月二十三日
他小祭





正面は小川町指定文化財・天然記念物の「八幡神社の大ケヤキ」





芭蕉の句碑





芭蕉の句碑 八幡神社境内

小川町大字大塚四二七番地

者流もや、氣色と、乃小月登梅
者世越
もさ紙
たふもや、氣色と
そ乃小月登梅

者流もや、氣色と、乃小月登梅

者世越

出典 蕉師子集

年代 元禄六年(一六九三)

年齢 五十歳

碑陰

当任 藤 道

句の大意

月はおぼろに霞み、梅は花をほころばせて、春もようやくその気配をととのえてきたようである。

平成三年三月

小川町教育委員会





本村 清

角 屋

加藤 鉄工所

笠間 実

笠間 昭良

笠原 孝彦

大島 政五郎

梅沢 彦次

内田 隼 (株)

八幡神社
八幡神社
八幡神社

八幡神社
八幡神社
八幡神社

八幡神社

所在地 比企郡小川町大字大塚

八幡神社は、元弘三年（一三三三）に、創建されたと伝えられている。

鎌倉幕府の滅亡に際し、將軍であった守邦親王は、慈光寺山麓の古寺の里に亡命し土豪猿尾氏に迎えられ、この梅香岡に仮寓したという言伝えがある。

守邦親王が鎮守神明社の境内に勧請したのが、八幡神社のはじまりであるといわれている。

慶安二年（一六四九）、三代將軍家光より社領十石二斗余を賜って以来歴代將軍から、御朱印を受けていたと伝えられている。

守邦親王が生前、小字的場で馬術を練習した故事にならって境内でかつて流鏑馬や馬くらべが行なわれていた。八幡神社の大けやきは、町の天然記念物に指定されている名木で、この木が下から水を吸い上げるため、この地の井戸はどんな日照りでも水が涸れることがないと言われている。

昭和五十九年三月

埼玉
小川町
玉川町
県



帰り際にこんな光景があった/石碑が倒れている



「埼玉県指定 史跡穴八幡古墳入口」と書かれていた/ぜひ元に戻してもらいたいものである



前方は調査隊の車



参考ホームページ

<http://www.town.ogawa.saitama.jp/lifework/bunkaz/anahachi.html>

<http://hazukimap.sakura.ne.jp/guide/11s/ogawa/11343S001.htm>

<http://sgkohun.world.coocan.jp/SAITAMA/ogawa/anahati.html>

<http://homepage3.nifty.com/ih1eda/091128anahatimannkohun.html>

